

件名：同志社女子大学ジェームズ会メールマガジン第 10 号



同志社女子大学ジェームズ会メールマガジン

2021.1.21 vol.10

同志社女子大学ジェームズ会事務局です。新年あけましておめでとうございます。今年こそは良い 1 年をと願っておりますが、また多くの地域で緊急事態宣言が発出され、当面はさまざまな制約を受ける生活が続きます。対面で人と会う機会も減りましたが、このような時だからこそ、声に出して相手に想いを伝えることの大切さを心に留めておきたいと思います。

○ ジェームズ会会員によるコラム 「声を出すということ」

今回はジェームズ会会員の S 様に寄稿いただきました。

コロナ禍の中、皆様いかがお過ごしでしょうか？医療従事者の方はもちろん、飲食店等の自営業の方々、企業にお勤めの方々も大変な日々を過ごしておられると思います。

同女を卒業した娘は、旅行会社で修学旅行等を担当する教育部門に勤めており、大変厳しい日々を過ごしているようです。娘には「お前も大変やろうけど、楽しみにしていた修学旅行に行けない子供たちはもっと大変やで。」と叱咤激励しております。私自身も医薬品の物流を担う企業に勤めているので、緊急事態宣言が出ようが出勤して現場で作業をしなければなりません、仕事ができるだけでありがたいことだと思って頑張っております。

さて、コラムの執筆依頼を受けて何を書こうか悩んでおりましたが、年末年始に花園ラグビー場で開催された全国高校ラグビーで教え子たちが楽しそうにグラウンドを駆け回っているのを観ていたら、やっぱりこれしかないと思い書かせて頂きます。

私は、日本ラグビーフットボール協会公認の B 級コーチライセンスを保持しており、大阪府の豊中ラグビースクールで指導員のボランティアをしています。豊中ラグビースクールでは、一昨年、日本で開催された W 杯の影響もあり、コロナ禍の中でも幼稚園児から中学生まで、200 人を超える子供たちが、毎週日曜日にラグビーを楽しんでいます。

私は現在、小学 5 年生を担当しています。子供たちには、技術や試合での勝ち負け云々より、大きな怪我なくラグビーを楽しんでもらえればと指導しています。

しかし、今、どう教えたら良いのか悩んでいることがあります。皆さんは、ラグビーはルールが分かりにくいと思われるでしょうが、ただ一つのことだけを覚えて頂ければ簡単です。ボールより前に居るときはプレー出来ないということです。後ろにしかボールを投げてはいけないという理不尽なスポーツなのです。

そこで大事なのは、後ろが見えない仲間に自分の存在をどう伝えるかということです。

それは「声を出す」ということ。簡単なことなのですが、これが子供たちには、なかなか出来ないこ

